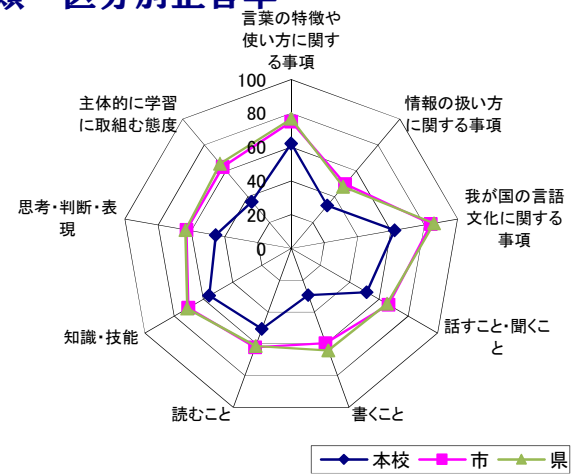


宇都宮市立清原東小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	62.2	75.1	76.7
	情報の扱い方にに関する事項	33.3	49.6	47.8
	我が国の言語文化にに関する事項	62.1	84.0	85.9
	話すこと・聞くこと	51.7	66.5	65.5
	書くこと	29.3	59.6	64.2
	読むこと	50.6	62.2	61.5
観点	知識・技能	56.0	70.2	71.1
	思考・判断・表現	45.3	62.9	63.6
	主体的に学習に取り組む態度	36.2	63.0	65.5



★指導の工夫と改善

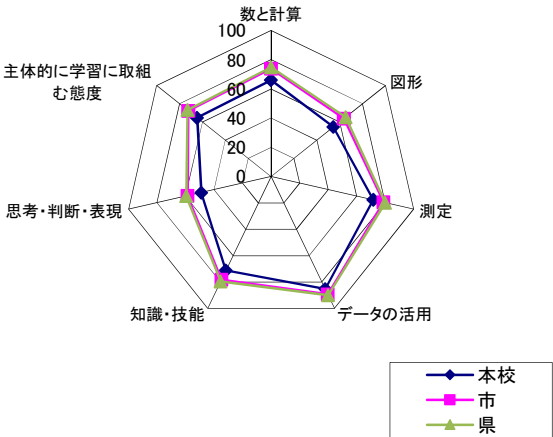
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ○三学年に配当されている漢字を正しく読めている。 ○主語と述語の関係を理解している。 ●三学年に配当されている漢字を書くことに課題が見られる。また、ローマ字で表記されたものを正しく読む問題に課題が見られる。	・学習した漢字を日常的に使う習慣を身に付けるよう指導する。 ・習っている漢字だけでなく前の学年の漢字も復習として取り入れながら、ノートを書く際も気を付けさせる。 ・身近なローマ字を読んだり端末を利用してローマ字を打ち込んだりする活動を取り入れる。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●国語辞典の使い方に課題が見られ、文と意味を照らし合わせるのが難しい。	・国語辞典の使い方を再確認し、言葉の意味調べの宿題を取り入れる。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は、市の平均より低い。 ●漢字のへんやつくりの意味を理解することに課題がある。	・新しく学習した漢字は、へんとつくりをとらえながら書くことができるよう指導する。 ・漢字辞典を日常的に使用するよう指導する。その際、へんとつくり注目させて漢字を理解させる。
話すこと・聞くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●話し手が伝えたいことを理解することが難しい。	・中心となる語や文を聞き取り、話の内容を捉える力を育てていく。
書くこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ●行数や段落が指定された文章を書くことに取り組めていない児童がいる。	・スクールタクトを利用して、短文で日記や文章を書く練習を継続する。 ・行数や段落の指定をして文章を書く練習に取り組ませる。
読むこと	平均正答率は、市の平均より低い。 ○物語の場面の様子を捉えることはできている。 ●説明文の内容は場面を捉えることが難しい。	・説明文の内容を読み取る練習を増やし、大切な語や文をとらえる指導を行う。 ・書き手の考えが書かれている場所を探し、読み取ったことを文章にまとめる活動を行う。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	66.0	73.8	74.8
	図形	54.5	63.7	65.3
	測定	71.7	78.9	80.1
	データの活用	85.3	89.3	90.0
観点	知識・技能	71.2	78.3	79.5
	思考・判断・表現	49.0	58.6	59.5
	主体的に学習に取り組む態度	64.7	72.3	73.1



★指導の工夫と改善

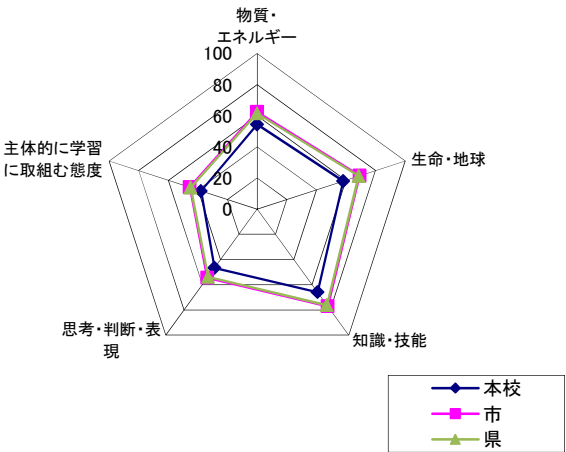
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○真分数同士のたし算の正答率は96%である。 ●分数が何個で1になるかという問題に課題が見られる。 ●暗算のしかたを説明するという問題に課題が見られる。	・基礎的な計算力を身につけるために、朝の学習や家庭学習などを活用し、小数やかけ算等の基礎をやり直す。また、かけ算・わり算・繰り上がりや繰り下がりがある計算問題に継続的に取り組ませる。 ・数直線を用いて分数の大きさについての復習をし、本質を理解させる。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ●コンパスを使った作図に課題が見られ、無回答率は1割である。 ●円の中心と円周上の2点を結んでできる三角形が二等辺三角形になる理由を説明するという記述問題の正答率が1割ほどで、無回答率も3割である。	・コンパスや分度器、三角定規などの道具を使用する機会を設けていくことで、苦手意識をなくし積極的に使えるようにする。 ・求め方や性質を説明できるよう、話す時間を設ける。
測定	平均正答率は、市の平均よりも低い。 ○2つの時刻の間の時間を求めたり、1分＝60秒の関係を理解したりする設問では、正答率が70%以上である。 ●重さの単位が正確に理解できていないので、身近にあるものの重さがどのくらいなのか推測することが難しい。	・日常生活でも長さや重さに意識を向けさせ、生活の中で長さや重さの単位を身近に感じさせていく。
データの活用	平均正答率は、市の平均よりやや低い。 ○棒グラフで、1目盛の表す数を理解したり、棒グラフを読み取ったりする設問では、正答率が85%である。	・問題文を読み解く力をつけていく。 ・何を問われているか理解できるように文章に慣れていく。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	54.4	62.5	61.5
	生命・地球	58.2	69.2	68.6
観点	知識・技能	66.0	77.2	76.3
	思考・判断・表現	46.6	54.4	53.7
	主体的に学習に取り組む態度	37.9	45.5	44.9



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より低い。 ○実験器具の名称等を短答式で答える設問では、市の平均と比べて正答率がやや高い。 ○光の性質では、実験を行った記憶が残っているのか他の設問と比べて正答率が高い。興味のある事柄を実験観察したときは学習内容が定着していると考えられる。 ○電気の通り道では実験した記憶が残っているのか正答率が他の設問と比べて高い。 ●理科用語を答える問題では市の平均より正答率が低い。	○キーワードのカードを用意し、実験中に該当する物に貼るなどの活動を行うことで、名称を意識付けさせる。 ○単元の最後に、学習した内容をキーワードでまとめさせるなどの活動を行う。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より低い。 ○自然への興味・関心が高く、昆虫のすみかや育ち方、植物の花のつくりなどについての設問の正答率が高い。 ●文章や単語で回答する設問で無回答が多い。	・生活経験が少ないため、校外学習等の機会を活用して、体験的な学習活動を充実させる。 ・スマイルネクストドリル等を活用し、繰り返し基礎的な問題に取り組ませる。

宇都宮市立清原東小学校 第4学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫

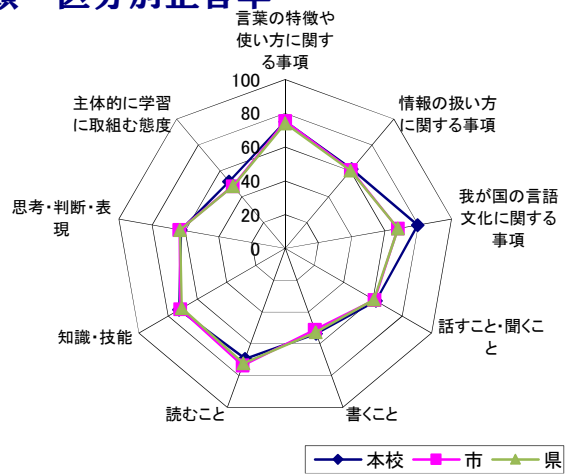
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 勉強していて楽しいと思う児童の肯定割合が高く、学習に対して意欲的に取り組んでいる児童が多い。
- 将来の夢や目標について前向きに考えている児童の割合が高い。
- 「毎日の生活が充実していると感じている」という設問では、肯定的割合が80%を上回っており、学校生活に満足している児童が多いことが分かる。
- 「クラスは発言しやすい雰囲気である」という設問では肯定的割合が高く、話し合う活動を通して自分の考えを広げている児童が多い。
- 「本やインターネットなどを利用して、勉強に関する情報を得ている」という設問では肯定的割合が高く、積極的に一人一台端末を利用していることが分かる。
- 「ふだん(月～金曜日)、1日にどれくらいの時間、睡眠をとることが最も多いですか。」という設問では、「7時間以上、8時間より少ない」と回答した割合が、市の平均より高い。また、9時間以上の睡眠時間を確保している児童の割合が、市の平均より低い。家庭との連携を図り、基本的な生活リズムを整えられるようにしたい。
- 「自分の行動や発言に自信をもっている」という設問では、「はい」と回答した児童の割合が20%程度になっている。学習や生活において、児童の頑張りを積極的に認める。
- 学校の授業時間以外で読書をしている児童の割合が低いので、引き続き読書の大切さについて呼びかけ、本を読む機会を増やしていく。
- 「物事を最後までやり遂げてうれしかったことがある」という設問では、肯定的割合が県の平均よりも低い。
- 社会科の学習に苦手意識をもっている児童の割合が高い。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	75.1	75.4	74.1
	情報の扱い方にに関する事項	61.2	60.5	60.2
	我が国の言語文化にに関する事項	79.6	67.7	67.8
	話すこと・聞くこと	62.0	61.0	60.7
	書くこと	53.6	51.2	52.8
	読むこと	69.4	73.7	72.4
観点	知識・技能	72.4	71.7	70.6
	思考・判断・表現	62.7	63.5	63.2
	主体的に学習に取り組む態度	51.8	48.2	48.1



★指導の工夫と改善

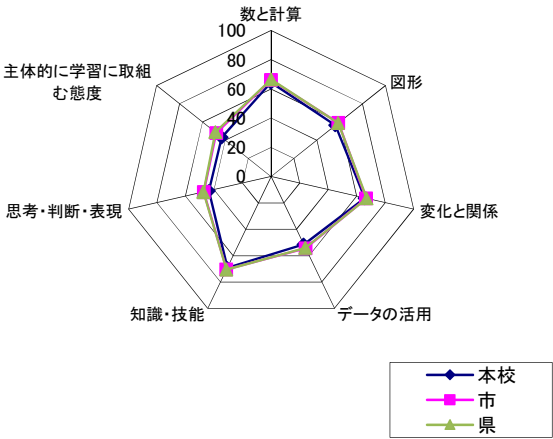
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は市の平均と同程度である。 ○第4学年に配当されている漢字を正しく書くことは、概ねできている。 ●連用修飾語の理解や正しい使い方に課題が見られる。	・様々な文章に触れる機会を多く設ける。文章の組み立てについて確認する活動を取り入れる。
情報の扱い方にに関する事項	平均正答率は市の平均と同程度である。 ○漢字辞典の使い方は理解できている。 ○情報と情報との関係について理解し、理由や事例などを挙げながら話す問題は県の正答率を上回っている。	・情報と情報との関係について理解し要約する力を伸ばすために、中心となる語や文はどれかを考えながら読む活動を多く取り入れる。また、それらを活用して、自分の言葉で文章にまとめることができるようにする。
我が国の言語文化にに関する事項	平均正答率は市の平均より高い。 ○ことわざの意味を知り、正しく使うことができている。	・ことわざを中心とした意味調べを行ったり、ことわざを用いた作文を書かせたりすることで、言語文化に関する能力をさらに高めていく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は市の平均と同程度である。 ○司会の役割を果たしながら話し合い、意見の相違点に着目して、考えをまとめることができている。 ●意見の共通点や相違点に着目して、考えをまとめることに課題が見られる。	・話し合い活動をする際には、相手の考えをメモするよう指導していく。自分と相手の意見の相違点に気づけるよう、メモ用紙の上で仲間分けをするなどして、意見の内容を比べられるようにする。
書くこと	平均正答率は市の平均と同程度である。 ○内容の中心を明確にし、事実を伝える文章を書くことができている。 ●無回答者が2割程度いる。	・週末に日記の宿題を出す際には、児童が取り組みやすいテーマを設定したり、授業中に自分の考えや分かったことなどを記述する時間を意図的に設けたりして、書くことに慣れさせるようにする。
読むこと	平均正答率は市の平均よりやや低い。 ○文章を読んで感じたことや考えたことを共有することができている。 ●登場人物の気持ちについて、叙述を基に捉えることに課題が見られる。	・場面が変わったことによっておきる時間の経過や登場人物の気持ちの変化について、登場人物ごとの気持ちの変化をまとめたり、それを比べながら読み取らせたりする。特に高学年においては、情景に登場人物の心情が込められていることが多いので、その点においても指導し、様々な視点で物語が読めるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	64.4	66.1	66.4
	図形	56.3	58.9	58.8
	変化と関係	65.7	66.6	67.0
	データの活用	51.5	54.4	54.2
観点	知識・技能	69.2	70.4	70.6
	思考・判断・表現	43.7	47.2	47.5
	主体的に学習に取り組む態度	43.1	47.8	48.8



★指導の工夫と改善

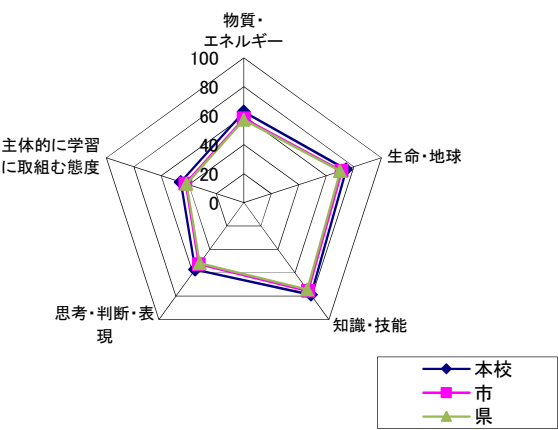
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、市の平均より低い。 ○小数を10倍した数を求める問題はできている。 ●小数÷整数の計算の計算に課題が見られる。 ●示された考えをもとに、数の相対的な大きさを使って、分数の加法を整数の加法に直して処理する方法の説明では、無回答がおよそ半数と課題である。	・「以下」と「未満」の意味を混同していると思われるので、数直線を用いて視覚的に分かりやすくしたり、「20歳未満はタバコは禁止」のような生活に根差したものに例えたりすることで理解できるようにする。 ・AIドリルやプリントで繰り返し計算の練習を行ったり、ミニテストを実施したりして、計算力の向上を図る。
図形	平均正答率は、市の平均より低い。 ○分度器の中に示された角の大きさの目盛の読み方を理解している。 ●教室のおよその面積を選ぶことには、課題が見られる。 ●平行四辺形の作図についても課題が見られる。	・教室だけでなく、日常生活で活用しているものの大きさや長さ、広さなどを感覚的に捉えられるように意図的に児童に特徴を述べさせる機会を多く設ける。 ・作図の学習では、図形の描き方だけでなく、図形の特徴を考えたり図形を比較して同じところや違うところを考えたりすることで、図形の性質をしっかりと理解できるようにする。
変化と関係	平均正答率は、市の平均より低い。 ○伴って変わる2つの数量の一方から、もう一方の値を求めることは、概ねできている。 ●伴って変わる2つの数量の関係を式に表すことは、課題が見られる。	・問題文から読み取ったことを図や式、表、数直線等に表して説明し合う活動を取り入れる。 ・比較量や基準量、倍を問う問題では、式だけでなく、教師が数直線や図を用いて説明したり、児童に説明させたりすることで、改善を図る。 ・立式するときに迷う傾向が見られるので、簡単な数字に置き換えて式を立てる活動を取り入れ、自信をもって立式できるようにする。
データの活用	平均正答率は、市の平均より低い。 ○2つの折れ線グラフから、必要なことを読み取ることは概ねできている。 ●折れ線グラフから変わり方を読み取ることに、課題が見られる。 ●二次元表の読み方の理解に課題があり、また、二次元表から人数の違いの求め方の説明については無回答も多く課題が見られる。	・グラフの読み方について宿題や朝の学習で繰り返し指導することで定着を図る。また、社会や理科などの他教科との関連を図りグラフを読み取ったり描いたりする活動を多く取り入れる。 ・分かったことや考えた理由など、児童が自分の言葉で書く場を意図的に設定し、記述して解答することに慣れるようにする。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	62.7	58.1	57.2
	生命・地球	74.4	71.1	70.0
観点	知識・技能	78.8	75.5	74.4
	思考・判断・表現	57.4	52.7	51.9
	主体的に学習に取り組む態度	45.8	42.4	41.7



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	平均正答率は、市の平均より高い。 ○日常生活上で経験している内容については正答率が高い傾向が見られる。 ○「物の体積と温度」では、全ての問題で市や県の平均を上回っている。 ●「水のすがた」では、予想が正しかった場合に得られる実験の結果を構想する問題に課題が見られる。	・理科で使用する言語について、繰り返し指導することで定着を図っていく。また、その言語を使って、実験や観察のまとめを自分の力で書けるよう支援していく。 ・課題の発見、予想、実験、考察などの問題解決のステップをしっかりと踏むことにより、直接体験を重視し、実感を伴った理解がなされるようにしていく。
生命・地球	平均正答率は、市の平均より高い。 ○日常生活上で経験している内容については正答率が高い傾向が見られる。 ○「雨水のゆくえと地面のようす」では、実験の結果をもとに土の粒の大きさと水のしみこみやすさの関係を記述する問題で、市や県の平均を大きく上回っている。 ●「1年間の植物の成長」では、季節とサクラのようすの問題に課題が見られる。また、「1年間の動物のようす」では、ツバメの1年間のようすの問題に課題が見られる。	・理科で使用する言語について、繰り返し指導することで定着を図っていく。また、その言語を使って、実験や観察のまとめを自分の力で書けるよう支援していく。 ・一年を通しての植物や動物の様子について、児童それぞれが一年を通して観察したいものを決め、タブレット端末で写真を継続して撮影するといった活動を取り入れる等して、理解を深められるようにしていく。

宇都宮市立清原東小学校 第5学年 児童質問紙調査

★傾向と今後の指導上の工夫 ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

- 勉強していて楽しいと思う児童の肯定割合が高く、学習に対して意欲的に取り組んでいる児童が多い。
- 将来の夢や目標に向かって前向きに考えている児童の割合が高い。
- 設問「授業の中で、目標(めあて・ねらい)がしめされている」では肯定的回答割合96%で市・県の肯定的回答割合を上回っているが、「授業であつかうノートには、学習の目標(めあて・ねらい)とまとめを書いている」では肯定的回答割合が市や県の割合を10ポイント程度下回っている。授業の学習内容をノートに記録することの大切さを児童に伝えて習慣化していくこととともに、支援の必要な児童に対しては書く内容を厳選することが必要である。
- 普段の授業以外に読書をしている児童の割合が低く、県の平均よりも大きく下回っている。引き続き読書の大切さについて呼びかけ、本を読む機会を増やしていく。
- 土日の学習時間が1時間未満と回答している児童の割合が高い。適切に宿題を出すなどして家庭学習の習慣づけを図りたい。
- 設問「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことはむずかしい」では市や県の肯定的回答割合を10ポイント以上下回っており、自分の考えを文章にまとめて書くことに苦手意識をもっている児童の割合が高い。国語をはじめとして授業中に意見を文章で表現する活動を行ったり一人一台端末を活用して考えをまとめたりすることで苦手意識の払拭に努めたい。
- 設問「学校での役わりや係の仕事にせきにんをもって取り組んでいる」では市や県の肯定的回答割合を10ポイント程度下回っている。学級の係活動などで児童が「できた」と思えるような活動内容や活動後の振り返りを行っていく。
- 設問「ふだん(月～金曜日)、1日当たりどれくらいの時間、けい帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか(けい帯電話やスマートフォンを使ってゲームをする時間はのぞく)」では、「持っていない」と答えた割合は市や県と比べて5ポイント程度高かったが、それ以外の回答では「4時間以上」と答えた割合が市や県の割合よりも5ポイント以上高い。引き続きスマホなどの使い方を児童へ指導するとともに家庭への啓発に努めたい。

宇都宮市立清原東小学校 (第4・5学年共通) 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・ICTを活用して、児童が主体的、対話的に学習に取り組む授業の工夫(相手に伝えるように表現する力を育む)	・学習場面に応じた効果的なICT活用の工夫(情報収集、整理分析、情報共有) ・一人一台端末を活用した協働学習での対話的な学び合い ・「家庭学習強化週間」や「親子読書」など、家庭との連携を図った取り組みの実施	・授業の内容を理解できていないと感じている児童がみられる。(特に国語) ・漢字を文章の中で置き換える問題の正答率が低い。 ・自分の考えを書く問題の無回答率が多い。 ・学校の授業以外で読書をしている児童の割合が低い。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
・自分の考えを書くことに、苦手意識をもっている。 ・家庭での学習時間が少ない。	・ICTを活用した表現活動の工夫 ・家庭学習につながる授業の工夫	・スマイルネクストドリルを活用した反復学習を行い、各教科の基礎・基本となる語句や用語の意味、使い方についての理解を深める。 ・ICTを活用して、自分の考えを表現する機会を増やす。 ・学習の振り返り活動を充実させ、学習を自己調整する力を養う。